

寅さん歩 その23

東京の博物館めぐりー22

墨田区ー3



平野 武宏

墨田区の博物館めぐりの続きです。事前の調査で墨田区の博物館の多さに驚きました。区内に多くある博物館(記念館・資料館・展示館等を総称します)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。各博物館の詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。

今回は両国エリアの博物館です。写真右上は両国国技館の大相撲開催時の風景です。入場料の記載なしは無料で、最寄り駅は代表例と出口です。

バーチャルウォーク「中山道六十九次」の途中経過も報告します。

【江戸東京博物館】 墨田区横網 1-4-1 最寄駅 JR両国駅西口

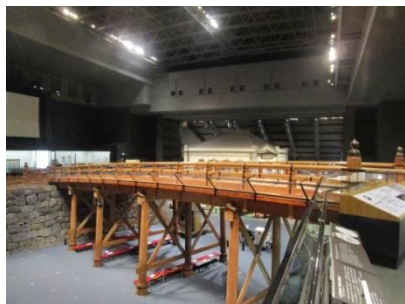
JR両国駅西口からは両国国技館の手前を右に行きます。大江戸線両国駅からは両国中学校側の道を行くと「亀に乗った徳川家康公」(写真下左)が江戸東京博物館(写真下右)を見守っています。江戸東京博物館は江戸東京の文化を振り返り、未来の東京を考える博物館として1993年(平成5年)3月28日に開館しました。建物は高床式の倉をイメージしています。



コロナ禍のもとで7月28日の開館9時30分の訪問者は寅次郎の他2名で貸切状態でした。1階総合案内所でチケットを買い、エレベーター

ーで上がり6階常設展示室から見学します。

復元された日本橋（写真下左）を渡ると江戸ゾーンで江戸城と町割り（写真下右）の展示があります。



5階の常設展示室は江戸ゾーン（写真下左は日本橋の上から見た芝居小屋の中村座）と東京ゾーン（写真下右は銀座四丁目にあった明治7年創刊の朝野新聞社）。これらは「江戸」の庶民文化と「東京」の誕生の姿を展示しています。



企画展示室では「発掘された日本列島 2020」が開催されていました。次回の企画展は「大東京の華—都市を彩るモダン文化」（8月25日～11月23日）です。開館は9時30分～19時30分、休館日は月曜日（祝日の場合は翌日）、常設展観覧料は一般600円、65歳以上300円、学生400円、中・高生300円。毎月第3水曜日はシルバーデーで65歳以上は常設展観覧料無料です。

【刀剣博物館】 墨田区横網 1-12-9 最寄駅 大江戸線 両国駅 A1

数少ない日本刀専門の博物館です。刀剣愛好者より寄贈された作品や、保管と管理を委託された刀剣、刀装、刀装具を収蔵・公開しています。

1968年（昭和43年）渋谷区代々木で開館、2017年に閉館、2018年（平成30年）1月、現在地の旧安田庭園内 両国公会堂跡地に開館しました。写真右は旧安田庭園心字池から見た刀剣博物館（後ろは病院）です。旧安田庭園は安田財閥の創始者安田善次郎が笠間藩主の下屋敷で後の岡山藩主 池田侯爵邸を買上げたもので、故人の遺志で東京市に寄付されています。





写真上は刀剣博物館の正面入口です。

館内は撮影できませんので、写真上右は入館券とパンフレットの刀剣の写真です。訪問時は第26回特別重要刀剣等新指定展が開催中で刀剣41、刀装(刀剣を携帯するための外装)4、刀装具6(刀装の部品)が1フロア内に並び展示されている光景は壮観でした。来訪者数名(女性も含む)は展示台前に立ち止まり熱心に眺めていました。太刀は[刃長2尺(60cm)以上あり、刃を下にして腰に佩(は)くもの。平安時代後期~室町時代に作られた]、刀は[刃長2尺(60cm)以上あり、刃を上にして腰に差すもの。室町時代以降に作られた]と呼ぶと学びました。

開館は9時30分~17時、休館日は月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始です。入館料は大人1000円、高校生・大学生500円、中学生以下無料です。刀剣愛好者にはこたえられない場所です。日本刀は約1000年前に誕生し、現代まで作り続けられている日本の伝統工芸品です。

【すみだ3M運動 小さな博物館】

古くから「ものづくり」のまちとして発展してきた墨田区。「すみだ3M運動」は、小さな博物館(Museum)、すみだマイスター(Meister)、工房ショップ(Manufacturing shop)の3つの”M”を通じて、すみだの産業やものづくりの魅力を伝えます。



「小さな博物館」は 墨田区の「産業」や「文化」に関する製品、道具、文献・資料などのコレクションを工場、作業場、民家の一部で展示し、写真左の看板がかかっています。

両国エリアの「小さな博物館」を紹介します。

〔N T T ドコモ歴史館展示スクエア〕 墨田区横網 1-9-2

最寄駅 JR両国駅西口

両国中学校の隣にあるN T T ドコモ墨田ビル1階にあります（写真下左は入口）。携帯電話の歴史を時代の出来事と一緒に紹介しています。なつかしい携帯電話が歴史上の出来事と共にずらりと並んでいます（写真下右）。



写真下は年表の最初と最後で写真下左は1895年イタリア実業家マルコーニが発明した世界最初の無線電信機、写真下右は2020年5Gで楽しさ・驚きの新たなスタイル革新です。



携帯電話の作り方の今と昔です。写真下左は1991年製アナログ・ムーバN、写真下右は2011年製スマートフォンP-07Cです。



〔袋物博物館 東屋〕 墨田区両国 1-1-7 最寄駅 JR両国駅西口

回向院の右側にある一の橋通りを進み、一の橋北詰を右折すると左にあります。1914年(大正3年)創業の袋物メーカー東屋は両国の革小物製品の専門店です。入り口(写真下左)でインターフォンを使い連絡すると案内の女性(館長)が出てきて、親切に説明してくださいました。新型コロナ禍で久しぶりの訪問者だと喜ばれました。江戸時代の煙草入れから始まった革製の袋物について時代のあゆみの説明を受け、材料の動物の皮も触れさせていただきました。テーブルクロス(写真下右)はすべて革製でした。



貴重な作品コレクション(写真下左)や手動ミシンなどの製作道具も展示されています。東京大空襲で墨田区の98%が焼けました。東屋エリアが焼けずに残った2%の場所で貴重な東屋の歴史(創業時のてぬぐいと屏風)が飾ってありました(写真下右)。訪問記念に革製の葉のプレゼントをいただきました。開館は13時~16時、月曜日~金曜日。土・日曜日は要予約だそうです。



〔桐の博物館 桐屋田中〕 墨田区両国 4-1-8 最寄駅 JR両国駅西口

一の橋北詰めを左折し、豎川沿いに行き、千歳橋の先の右にあります。



かつては女の子が生まれると庭に桐の苗を植え嫁入りに桐の箆笥の材としたと言います。桐箆笥は耐火湿性に優れ家具として理想の条件を満たしていたためです。桐箆笥が発生して普及しだしたのは江戸時代後期～元禄頃と知りました。開館は10時～17時、月曜日～日曜日(水曜日、GW、年末年始を除く)です。

【寄り道】 深川あさり蒸籠飯

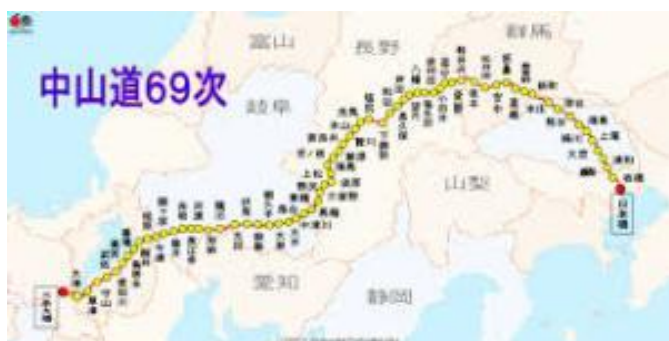
両国駅西口隣接の「江戸NOREN」に寄り道です。粋な江戸の食文化を楽しむ10の和食店と両国観光案内所があります。実物大の土俵の向こう側にある「門前茶屋 成る口」(写真下左)で深川あさり蒸籠飯(1320円)(写真下右)を美味しくいただきました。



【バーチャルウォーク途中報告】

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「中山道六十九次」に挑戦です。7月7日、日本橋を出立し、9月6日、日本橋から29番目の下諏訪宿に到着です。和田宿から次の宿場ですが、長丁場(約22km)や雨のため6日間を要しました。元気なころでは1回の歩行距離です。

下諏訪宿は諏訪大社下社の門前町として栄えました。本陣岩波家(写真下右)には皇女和宮、明治天皇、多くの大名が宿泊したそうです。



しばらくは例会がお休みですので、自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。

FWAのHP「YR・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の3密にならないようご注意ください！

また、ウォーキングで人との距離(2m以上)が確保できる場合はマスクを外して、熱中症にご注意ください！

次回は 東京の博物館めぐり-23 です。

平野 寅次郎 拝